

未来に残ることを創る

あわらの温泉は 茶苦茶無から 多から おもしろい!

さあ
いくぞ!

グランディア芳泉
山口高澄 常務



あわら市では八月八、九日に、毎年恒例の「あわら湯かけまつり」が開かれます。コロナ禍の影響による中止から三年ぶりに開かれた昨年は、規模を縮小しての開催。今年は制限なしで行えることあって、準備する側のボルテージも最高潮に達しています。中止に入る前の二〇一九年を振り返ると、「湯かけ」に七十丁の源泉が利用されてきました。「お湯かけじゃー」の合図で一斉にお湯をかけ合い、先祖、地域、お湯に感謝しながら喜びを分かち合いました。参加者は、びしょぬれになりながらも、みんな笑顔です。

あわら湯かけまつり



やお菓子約二万個を振る舞う「まんじゅうまき」も盛大に行われて大にぎわい。「日本一の湯かけまつり」と胸を張って誇ることが出来ます。この祭りが、どんなきっかけで始まったのか、初代実行委員長のみや泰平閣社長、美濃屋啓晶さんにかがいます。



◎土田委員長（前列中央）らあわら湯かけまつり実行委のメンバー
◎2019年のあわら湯かけまつり=2019年8月8日、あわら市温泉1丁目で

初開催は十七年前の二〇〇六（平成十八）年。坂井郡金津町と芦原町が合併してあわら市が発足した二年後に両町の商工会が合併したのがきっかけ。「合併した二つのまちが今後も仲良くしていくために、何か一緒に創り上げないと」と、両町それぞれの観光資源「太鼓の山車」（金津町）と「お湯」（芦原町）を合わせた祭り「湯かけまつり」を提案したそうです。

美濃屋さんの「やるなら一時の流行ではなく、未来に残っていくことを創り上げた」という言葉が印象的でした。今まではあわらを守ってこられた先輩方の、あわらを愛し皆のことを思っ心が実感できました。われわれも見習わなければ。

先輩方の思いを引き継ぎ、今年の祭りをさらに盛り上げるのは、土田洋輔委員長を先頭に、イベントのプロと地域を知り尽くしたベテラン・若手がタッグを組んだ実行委の面々。温泉ソムリエの私には分かります。優しいアルカリ性と力強い酸性が融合した、どこにもない「温泉成分メンバー」です。

ここに、あわら温泉開湯百四十周年実行委員会も合流し、今までにない熱い、歓喜の湯かけまつりに向けた準備を進めています。今年は金津でも開催する予定。まさに今はやりの二刀流、いや「二湯流」です。

先祖、諸先輩、そして今まで歴史を作り上げていただいた方々に感謝をし、子供たちが喜ぶ姿を見ながら、さまざま垣根を越えてみんな笑顔を共有する。そんな街になることを祈って、今年もお湯をかけ合います。皆さんも一緒に、湯をかけ合いませんか。さあいくぞ！ 今から福井は、あわらは、温泉旅館は無茶苦茶おもしろい!

